

学びの秋 読書の秋

校長 藤井 和彦

十月四日は第三十三回教育研究会でした。保護者の方や多くの地域の方にお越しいただき、大変ありがとうございました。

本校は三年前から研究教科・領域を「生活科」「総合的な学習の時間」ですすめています。今年は三年生が国語科の説明文教材「大豆のひみつ」の発展学習として「どうしたら池田豆腐店（豊松）のような豆腐が作れるか。」にチャレンジし、四年生は「神石の新名所・古川の馬乗りの滝」をどのように広めるかを題材に取り上げ、五・六年生は牧のぶどう園のご協力のもと、三次と神石高原のぶどうの違いを課題として、農家の努力や工夫、地域の活性化などについて学習しました。いずれの学年も私たちが住んでいる高原町の特徴を地域の誇りとして学習に位置付けました。

豊かな自然と多くの特産品などを教材として取り入れ、地域学習として学ぶことができるのも、神石小学校ならではのことと思います。皆様、ご協力ありがとうございました。

さて、昔からこの季節は「灯火親しむの候」といい、読書に最適の時期として知られていますね。十月二十七日から読書週間がスタートします。

学校では、年間を通して「読書百選」や「家庭での親子読書」、「おすすめの本」の紹介、また月に二回程度図書館司書の方の図書室の蔵書整備など、読書に親しむ環境づくりをすすめています。読書週間に先立って十月十八日には「ゆきんこ」の方をお招きして読み語り朝会を予定しています。

十一月一日には、読書朝会で各学年から読んでほしい本の紹介、図書委員会からの発表など、様々な工夫で子供達が本を好きになるような取り組みを行います。

読書を通じて出会う未知なる世界や人物と繰り広げる疑似体験は子供達に豊かな想像力を培い、夢を育み、生きる喜びを与えてくれます。時には秋の夜長に家族で本に親しむ時間をぜひご利用ください。